

フェイクニュースとは何か

「フェイク」とは、ウソ、あるいは偽物のことです。ですから、フェイクニュースとは、ウソ、あるいは事実ではないニセのニュースということです。

最近、特に話題になることが多いフェイクニュースとは、どのようなもので、なぜフェイクニュースが広まっていくのでしょうか。

フェイクニュースとはウソニュース

「フェイクニュース」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。

フェイク (fake) とは、偽物、模造品を意味する英語です。ですから、フェイクニュースとは、“ニセのニュース・まちがったニュース”ということになります。

真実ではない内容の情報であるという意味では、デマと同じようなものだと考えてよいでしょう。

ただし、デマは人づてに広がっていくものであるのに対して、フェイクニュースは、“ニュース”としてあつかわれるという点で、デマとはちがった広がり方をすることに注意が必要です。

多く人は、新聞やテレビ、あるいは一部のインターネット上で流されるニュースは事実だと考え、その内容を信じてしまいます。

実際に、新聞やテレビなどでニュースとして取り上げられる情報は、新聞社やテレビ局の人たちが、きちんと事実関係を調べてから

流すので、ほとんどの場合は事実だといえます。しかし、中にはまちがって伝えられるニュースもあるのです。

また、ニュースの発信者が、他人をだます目的で、ウソであることをわかっていながら、フェイクニュースを流すこともあります。

アメリカの大統領選挙をきっかけにフェイクニュースが話題に

フェイクニュースは、ニセのニュース・まちがったニュースのことだといいました。この言葉自体は、昔からありました。

最近、特にフェイクニュースが話題として取り上げられることが増えたのは、2016年のアメリカ合衆国大統領選挙がきっかけだといわれています。

アメリカ合衆国大統領選挙のとき、当時のトランプ候補は、自分の人気に悪い影響をおよぼしそうなニュース記事については、「フェイクニュースだ」といって新聞社などを批判したのです。そして、それと同時に、自分でも他の候補者の悪い評判につながるような情

報を発信したりもしていたといわれています。たとえば、自分と対立する候補者が、「昔の大統領暗殺事件に関与している」といったフェイクニュースを発信したりしたのです。



トランプ氏は、大統領選挙で勝ち、2017年1月に、第45代アメリカ合衆国大統領となりました。しかし、トランプ氏が大統領になって以降も、その周辺ではいろいろとフェイクニュースが話題になることがあり、こうしたフェイクニュースに関する情報は世界中に広がりました。そして、アメリカにとどまらず、フェイクニュースは世界的に問題とされるようになりました。

2017年には、フランスでも大統領選挙が行われましたが、このときにも、特定の候補者に関する根拠のないフェイクニュースが広がり、混乱を招いたといわれています。



インターネット利用が広がったことで、フェイクニュースも広がった

フェイクニュースが、これほどに問題となった背景には、インターネット利用の広がりが大きな原因としてあるといえます。

すでに説明した通り、もともとデマなどが広まっていくのは、人から人へ情報が伝達されるものであり、一度に大勢の人に伝わる可能性は低かったといえます（それでも、デマは短い期間で、大勢の人に伝わるが多いのです）。しかしインターネット利用による情報の伝達は、一度発信すると、とても大勢の人にいったん届くという特性があります。そのため、瞬く間に情報が広がっていくのです。そのスピードの速さと、広がる範囲の大きさは、人づてに伝わるデマとはくらべものにならないほどです。

実際に、アメリカ合衆国大統領選挙の時のフェイクニュースも、フランス大統領選挙のときのフェイクニュースも、インターネット利用によって、短期間に広範囲に広がっていったのです。

情報の受け方・出し方の注意点

情報メディアの種類はいろいろで、ひとつの事実についての取り上げ方もいろいろです。ですから、一方的に情報を受け取ることになるメディアとの接し方には注意が必要です。また、SNSなどを使って他人とコミュニケーションをとる場合にも、直接会話する時とはちがった注意点があります。ここでは、そうした注意点について見ていきましょう。

発信者の意図で、情報内容が異なることもある

発信者の意図で、ちがったニュースになる例

○月×日の夜、△△市の上空で、飛行機やヘリコプターなどではありえない動き方をしている飛行物体が、多くの人に目撃されました



情報の受け方の注意点

情報メディアの多くは、「事実を正確に」伝えることを大切にしているものが多いのですが、中には「読者の興味関心を優先する」メディアもあります。

44ページで取り上げた例のように、「飛行機やヘリコプターなどではありえない動き方をした飛行物体が、大勢の人に目撃された」という事実について、メディアによっては、「宇宙船が目撃された」としてニュースにすることもできるかもしれません。また、公平に賛成意見や反対意見を掲載するメディアもあれば、意図的に反対意見だけを掲載することもできてしまいます。

これはあくまで架空の例ですが、このように情報メディアによって、事実の取り上げ方が異なる場合があるということは知っておく必要があります。

発信者がだれなのかによって、情報の信頼性も異なるので、「この情報は、だれが発信しているのか」ということを常に気にしておく必要があります。



情報の伝え方の注意点

インターネットを使えば、だれもが情報の発信者になれます。あなた自身が情報発信者になることもできるということです。

たとえば、あなたが「昨日、UFOが目撃されたの知ってる?」と友だちにラインでメッセージを送ったとします。あなたとしては「昨日、UFOが目撃されたというニュースがあったことを知っていますか?」という意味で発信したのだとしても、「UFOが目撃されたの知っているか?」と発信すると、「UFOが目撃された」ことを事実として相手に伝えていることになります。このようなちょっとした言葉遣いが相手に誤解をあたえ、事実とは異なる情報が広がっていく危険性があるのです。

ラインやツイッターでは、書き言葉や絵文字などだけでコミュニケーションが進むので、十分に気持ち（感情）を伝えられません。

わたしたちは、何かの情報に接する時、また自分が得た情報をだれかに伝えようとする時、メディアの特徴やコミュニケーションの特徴を理解しておかないと、正しいコミュニケーションができないのだということに注意が必要です。

